

訪日客米欧豪からも増

昨年18%増「長期滞在」対応急ぐ

政府が17日発表した2016年の訪日客統計では、中韓など東アジアからの訪日客数が前年比23%伸びたほか、米欧豪も18%増えた。旅行先として日本の認知度が世界的に高まったのが主因だ。た

だ訪日客1人あたりの消費額は10%超減少。人数は増の2403万9千人、オーストラリアが18%増の44万人を記録するなど米豪からの訪日客も好調だった。欧州も18年ぶりに直行便が就航したスペインが19%増えた。

観光庁の田村比古長官は17日の記者会見で「日本が海外旅行の目的地として認知されるようになってきた」と指摘した。国土交通省の分析では欧米の旅行者は原爆ドームや宮島を抱える広島県への訪問が多い。歴史や文化への関心が高いのが特徴だ。

欧米の旅行者に民間も関心を寄せる。西武ホールディングスの後藤高志

鶴岡八幡宮で写真を撮る外国人観光客（17日、神奈川県鎌倉市）



米国の20%増の124万人、観光庁の田村比古長官は17日の記者会見で「日本が海外旅行の目的地として認知されるようになってきた」と指摘した。国土交通省の分析では欧米の旅行者は原爆ドームや宮島を抱える広島県への訪問が多い。歴史や文化への関心が高いのが特徴だ。

欧米の旅行者に民間も関心を寄せる。西武ホールディングスの後藤高志

社長は「爆買いツアーは長く続かないと思って、欧米からの顧客をしっかりと増やしてきた」と話す。ザ・プリンス

スパークタワー東京（東京・港）は昨年10月に新田村長官は「アジアを中心にしたプロモーションの重点を欧米豪に移し、頭の中長期滞在者向けの

を20年に4千万人に増やす政府の目標を達成するには、訪日客の裾野を広げる必要があるためだ。欧米の訪日客は経済効

果の観点でも重要だ。16年の訪日客消費額は7・8%増の3兆7476億円と過去最高だったが、1人あたり消費は11・5%減った。政府が20年の目標とする8兆円に向けて、訪日客数に加え消費単価が鍵を握る。為替動向に影響されやすい買い物だけでなく、宿泊や食事、体験に幅広くお金を使ってもらうようにする努力が必要だ。

遠方から来る観光客ほど長く滞在して、多くのお金を落とす傾向がある。1人あたり消費額は買い物が突出して多い中国（23・2万円）を除くと、豪州の24・7万円やスペインの22・4万円が平均（16・6万円）を上回る。